



特定非営利活動法人 環境防災研究機構北海道
平成26年度 活動報告



目次

環境保全と防災に関わる社会教育事業	
伊達市防災アドバイザー	2
豊浦町防災アドバイザー	2
「緑はどうなった？」事業支援	3
STV ラジオ防災講座講師派遣	3
CeMI 北海道 会員研修セミナー	4
環境保全と防災に関わる普及啓発事業	
中南米地域 火山防災能力強化研修	6
北海道内ジオパーク スタンプ帳作成支援	6
洞爺湖有珠山ジオパーク推進支援	7
洞爺湖有珠山ジオパーク解説看板原稿作成	7
洞爺湖有珠火山マイスター広報パンフレット作成	8
伊豆大島ジオパーク再認定審査支援	8
稚内市防災教育推進支援	9
稚内市職員防災研修	9
さぼーとほっと基金 南区防災教育	10
壮瞥小学校地域環境防災学習支援	10
NHK「おいしく学ぼう火山のしくみ」学習会講師	11
市町村等から依頼の防災講演及び出前講座	11
環境保全と防災に関わる国・自治体・企業・ライフライン・報道機関等と住民との連携調整事業	
地域防災力向上連携方策検討	13
十勝川流域土砂動態調査検討	13
浅間山ジオパーク構想広報チラシ作成	14
北海道流域環境防災研究会	14
北海道災害情報研究会	15
環境保全と防災に関わる情報の共有事業	
上ノ国町地域防災計画修正検討支援	17
大豊町地域防災計画修正検討支援	17
環境保全と防災に関わる調査・研究事業	
地域の守り手の安全確保支援策の調査研究	19
伊豆大島観光復興プロジェクト	19

すべて CeMI との共同研究

：受託

：自主

環境保全と防災に関わる 社会教育事業

伊達市防災アドバイザー

昨年度までと同様に次に記す業務を行った。

- 1) 広報だての防災コラム“日頃から災害に備えましょう”に2頁分の原稿を2回提供した。
2014年7月号 家具を固定しよう 2014年10月号 ローリングストック
- 2) 有珠山現地見学会
2014年9月19日 有珠火山防災会議協議会参加機関の防災担当者対象：山頂火口原南部での噴火を想定した現地実習
2014年9月20日 伊達市及び周辺自治体の市民対象：約7000年前の山体崩壊と1977-78年及び2000年噴火で生じた変動の有様を見学し、近い将来に発生する噴火について考えた。
- 3) 職員防災特別研修
伊達市職員は前回の噴火後に採用された職員が増えてきており、しかも前回噴火を体験していない者が少なくない。こうした職員向けの防災特別研修を毎年実施している。
2014年10月2日 講義“有珠山の噴火に備えて”
2014年10月3日 山頂火口原南部を歩きながら過去の噴火で生じた変動地形や噴出物に学びつつ、山頂噴火が起こったらどうなるかを実習した。
- 4) 市民防災講座
2015年2月3日に伊達市防災センター講堂で開催。演題は“過去の事例に学ぶ噴火のリスク”。周辺自治体の市民や防災関係機関の職員も含めて約70名が受講。

< 北海道伊達市 >

豊浦町防災アドバイザー

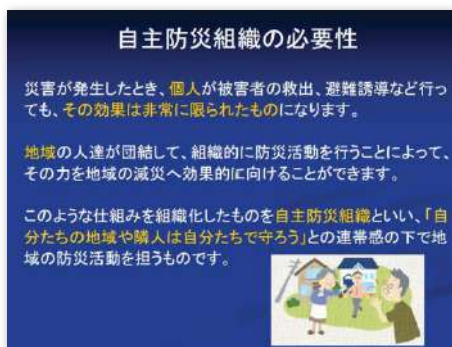
豊浦町が計画している防災事業に対する助言、指導を行うとともに、豊浦町民の防災意識と地域防災力の向上を目的とした啓発活動の運営支援を行う。

平成26年度は以下の2事業を実施した。

- (1) 広報とようら「町民防災講座」の原稿作成防災コラムの執筆(4回)
- (2) 自主防災組織及び地区別避難計画の説明会の実施及び資料作成



防災コラム



豊浦町自治会研修会資料

< 北海道豊浦町 >

「緑はどうなった？」事業支援

2000年の有珠山噴火で校舎の移転を余儀なくされた洞爺湖温泉小学校では、子どもたちに地域をもっと知ってもらうため、小学校、大学、関係機関、研究機関等が連携し、有珠山噴火の学習会や植樹を行う「緑はどうなった？」授業を実施している。

当機構は、「緑はどうなった？」授業の運営補助や広報活動の支援を行っている。

この活動の様子は、CeMI ホームページ <http://www.npo-cemi.com/works/midori.html> にて紹介している。



室蘭建設管理部からの噴火のお話



洞爺湖温泉小学校生徒による植樹

STV ラジオ防災講座講師派遣

STV ラジオで放送されている「どさんこラジオ(平日正午～午後6時)」内の1コーナー「どさんこ防災研究所」では、月1回15分程度(月の最終水曜日、変更の場合あり)、災害とその備えについて、道民へ情報発信している。

当機構は、STV ラジオと協働で「どさんこ防災研究所」のテーマや内容を企画し、そのテーマに応じた講師を派遣している。

放送日	回数	テーマ・講師	放送日	回数	テーマ・講師
4月24日(木)	第12回	「火山噴火災害に備えて」 岡田 弘 氏	10月30日 (木)	第18回	「今年、北海道で発生した豪雨 災害について」 藤間 聡 氏
5月28日(水)	第13回	「土砂災害とは？」 新谷 融 氏	11月26日 (水)	第19回	「暴風雪災害について」 菊地 範 氏
6月25日(水)	第14回	「土砂災害に備える」 新谷 融 氏	12月24日 (水)	第20回	「北海道の大雪の災害につい て」菊地 範 氏
7月30日(水)	第15回	「台風災害に備える」 菊地 範 氏(札幌管区気象台)	1月28日(水)	第21回	「地震災害に備えて」新山 亮 二 氏(札幌管区気象台)
8月27日(水)	第16回	「局地的な大雨と突風災害」 菊地 範 氏	2月26日(木)	第22回	「冬の津波から身を守るため に」新山 亮二 氏
9月26日(金)	第17回	「雲仙普賢岳噴火が残した火山防 災への教訓」宇井 忠英 氏	3月25日(水)	第23回	「2000年有珠山噴火15周年 に思う」岡田 弘 氏

CeMI 北海道 会員研修セミナー

CeMI 北海道の会員との情報共有や地域防災力向上のための議論を行うことを目的に、平成 22 年度より 2 ヶ月に一度定期開催している「会員研修セミナー」は、平成 27 年 4 月の開催で第 24 回目となった。平成 23 年の東日本大震災以降、3 年間にわたって継続してきた道内における大規模災害とその備えに関する議論を一区切りとし、平成 26 年度は「北海道の災害を考える」という年間テーマを掲げ、いま一度北海道内で発生し得る災害の特徴に目を向けて話題提供及び議論を行うこととした。

会員研修セミナーは、CeMI 北海道の会員とその推薦する非会員を参加対象として開催し、テーマによる増減はあるが、総会時講演会を除き毎回 10～30 名程度の参加があり、道内の防災行政を支える建設コンサルタント社員をはじめ、様々な分野の方による有益な意見交換が行われている。

	開催日	話題提供者	テーマ	参加者数
第 20 回 (総会講演会)	H26.6.23	丸谷 知己 氏 北海道大学大学院教授	『変貌する「静かなる大地」北海道』	57 名
第 21 回	H26.8.29	山岸 宏光 CeMI 北海道 理事	本州と四国の斜面災害 - 北海道の災害を考えるために -	27 名
第 22 回	H26.10.24	植松 孝彦 氏 (株)雪研スノーイーターズ 代表取締役	雪害について	12 名
第 23 回	H26.12.12	宇井 忠英 CeMI 北海道 理事	火山噴火と地震 - そのメカニズムと地域社会への影響 -	16 名
第 24 回	H27.4.17	藤間 聡 CeMI 北海道 代表理事	北海道沿岸で想定される最大津波とその対策の取り組み	32 名



第 20 回セミナーの様子



第 20 回セミナーの様子



第 21 回セミナーの様子



第 22 回セミナーの様子



第 23 回セミナーの様子



第 24 回セミナーの様子

環境保全と防災に関わる 普及啓発事業

中南米地域 火山防災能力強化研修（CeMI との共同研究）

中南米地域の火山を有する国を対象とし、火山防災の現場に携わる行政官や学識者の育成を目的とした研修を、独立行政法人国際協力機構（JICA）北海道とともに実施した。5カ国8名の研修員は、約1ヵ月間講義や現地視察を通して減災対策や体制整備、人材育成の実例を学び、自国における行政と地域コミュニティの連携による防災力向上プランを作成した。

現地研修では、駒ヶ岳・有珠山・十勝岳に行き、地元自治体や関係機関から、説明をしていただいた。普段からの連携が、減災行動に有益であることを実感してもらった機会となった。



洞爺湖畔で中島をバックに



説明をしていただいた方達と

< JICA 北海道 >

北海道内ジオパーク スタンプ帳作成支援

平成25年度、当機構では、北海道内の世界ジオパーク及び日本ジオパーク間の情報共有や協力・支援体制の構築・強化に資するツールとして、北海道ジオパークスタンプ帳の作成支援を行った。

作成したスタンプ帳は、各地域のジオパークを紹介するパンフレットとして活用されており、平成26年度より北海道ジオパークスタンプラリーで活用されることとなった。そのため、当機構ではスタンプ帳の改訂や増刷等の支援を行った。



北海道ジオパークスタンプ帳

< 北海道胆振総合振興局 >

洞爺湖有珠山ジオパーク推進支援

平成21年8月に「世界ジオパーク」に登録された洞爺湖有珠山ジオパークの推進のため、CeMI 北海道の職員がジオパーク推進協議会事務局に出向し、地域により密着した立場で、ホームページ更新等の広報活動、洞爺湖有珠山火山マイスター制度の運営支援など、事務局業務の支援を行った。



< 洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会 >

洞爺湖有珠山ジオパーク解説看板原稿作成

洞爺湖有珠山ジオパークでは、来訪者がジオサイトを気軽に訪れ、地域の価値や魅力を知ることができるよう、さまざまな場所に解説看板を設置する取り組みを行っている。

今年度は、壮瞥町の洞爺湖岸で見られる「力岩」と呼ばれる火砕流堆積物をテーマにし、解説看板の素材収集や原稿作成及び盤面デザインを請け負い、有識者監修のもとで作成した。

< 北海道壮瞥町 >



洞爺湖有珠山ジオパーク
Toya Caldera and Usu Volcano Global Geopark

力岩 (ちからいわ)
Guardian Rock (Chikara-iwa)



遠い景色に見える地は「力岩」と呼ばれており(写真1)、現在地から湖畔沿いに散策路を歩いて行くと、岸辺でも観察することができます(写真2)。
 今からおよそ100万年前の火山噴火で噴出した「流の上岩砕炭岩」と呼ばれる火砕流堆積物のうち、洞爺湖の湖底やほとりに見える部分が「力岩」と名づけられました。この火砕流堆積物は現在地の背後に広がる丘陵地にも続いており、洞爺湖から流れ出す唯一の川・杜羅川が、その丘陵地を削って谷間を作りました。
 約110万年前、日本列島最大級の噴火によって巨大な火砕流が噴出してカルデラができました。目の前に広がる洞爺湖は、そのカルデラに水が貯まって誕生した湖です。「力岩」は洞爺湖までおよそ2km離れた所に存在し、今も湖水の圧力に耐えながら、力強く湖岸を支えています。

The rock you see on the shallow lake floor is called, Guardian Rock (Photo 1). If you walk from the place you are now along the lakeshore path, you can observe it from the shore (Photo 2).
 From the pyroclastic flow of an eruption approximately one million years ago, the Takinone welded tuff you can see on the lake floor was named, Guardian Rock. The pyroclastic flow at this place continues to spread out behind you with hilly areas, and the only river that runs out of Lake Toya, Sobetsu River carved the ravine in the background.
 About 110,000 years ago, an extremely large-scale volcanic eruption discharged a massive pyroclastic flow that created the caldera. Lake Toya as you see spread out before you, was born from the water that filled this caldera. Guardian Rock was here long before Lake Toya was created. Even now it withstands the pressure of the lake water and continues vigorously to hold up the lakeshore.



火砕流 高温の岩や火山ガスが一掃になって急速で流れる現象

洞爺湖炭岩 火砕流などの火山噴出物が積もった際に、高温のため自重で固まりつぶれて固い岩石になったもの

カルデラ 火山活動が原因となってきた直径がおよそ2km以上の窪地



【写真1】湖面から見た力岩。深い湖底下に力岩が広がっている。
(Photo 1) This location taken from the lake surface. Guardian Rock extends out below the shallow surface.



【写真2】岸辺には力岩が露出している。
(Photo 2) Guardian Rock exposed on the shore.

Pyroclastic flow A stream of heated rocks and volcanic ash produced by an eruption.

Welded tuff A pyroclastic rock that was sufficiently hot at the time of deposition to weld together under its own weight.

Caldera A hollow larger than about two kilometers in diameter created by volcanic activity.



洞爺湖有珠山マイスター広報パンフレット作成

有珠山地域の防災力向上や次期噴火に備えた防災リーダーの育成をねらいとし、北海道胆振総合振興局および有識者・地元自治体・関係機関等によって「洞爺湖有珠火山マイスター制度」が構築され、平成26年度までに、7期・35名の火山マイスターが誕生している。

火山マイスターは、洞爺湖有珠山の特性や自然について学び、正しい知識や噴火の記憶を世代を超えて語り継いでいく「学びと伝えの実践者」として、地域内外に向けて様々な活動を行っている。この制度と活動を広く周知するための広報パンフレットを作成した。



洞爺湖有珠火山マイスター広報パンフレット

< 洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会 >

伊豆大島ジオパーク再認定審査支援（CeMI との共同研究）

ジオパークは、持続可能な地域の発展を基本理念のひとつとすることから、ジオパーク認定後もジオパーク活動が地域に根付き継続され、質の向上が図られているかを評価する再認定審査が4年毎に実施される。

「火山活動と自然界の変化・人間との関わり」をテーマに、2010年に日本ジオパークに認定された「伊豆大島ジオパーク」の再認定審査が円滑に行われるよう、ジオパーク関係者を対象としたヒアリングを行い、4年間の取り組みをまとめた現況報告書を作成、他ジオパークの再認定審査動向のとりまとめ、再認定審査現地審査ヒアリングチェックシート等を作成し、支援を行った。

< 東京都大島町 >



現況報告書

稚内市防災教育推進支援

稚内市の小中学校教職員の防災意識の醸成と知識の向上を図り、防災教育に関するノウハウを学ぶとともに、継続的な学校防災教育の推進を図ることを目的に、同市の教職員、教育関係者を対象とした防災講演会及び小学生を対象とした防災に関するモデル授業の運営補助を行った。講演会及びモデル授業の実施にあたり、北海道教育大学釧路校の境 智洋准教授、稚内市地方气象台に講師を依頼した。



講演会の様子



モデル授業の様子（津波実験装置）

< 北海道稚内市 >

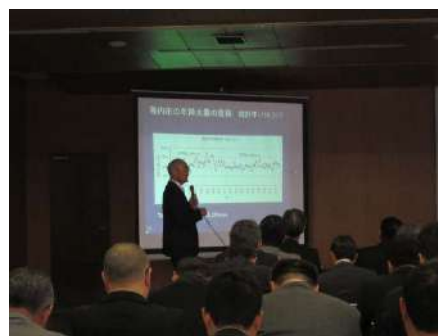
稚内市職員防災研修

近年の台風の巨大化や局所的豪雨の多発化にともない、全国各地で甚大な被害が発生している。平成26年には稚内市においても、河川の溢水害や土砂災害等、同時多発的に様々な災害が発生し、それに先立ち避難勧告も発令された。このような状況を踏まえ、稚内市における防災体制の構築・強化を目指した市職員を対象とした水防研修を実施した。

実施日	講師	内容
H26.11.26	藤間 聡 CeMI 北海道 代表理事	・稚内市で想定される風水害・土砂災害と危険性 ・水害警戒時及び水害時の市職員の防災対応



11月12日 土砂災害（稚内市）



研修の様子

< 北海道稚内市 >

さぽーとほっと基金 南区防災教育

札幌市が寄附を募り、まちづくり活動に助成を行う「さぽーとほっと基金」制度を通じた、鹿島舗道工業株式会社の支援・要望のもと、南区に暮らす地域住民の安全で安心なまちづくりに資する子ども防災学習会を実施した。

日時	対象	場所	内容
10月7日(火) 14:30~15:30	小学校1~6年生 30名	真駒内児童会館	・地震災害を知ろう ・自分だけの懐中電灯をつくろう



防災授業の様子



懐中電灯の作成

< 鹿島舗道・札幌市 >

壮瞥小学校地域環境防災学習支援

2000年の有珠山噴火で甚大な被害を受けた有珠山周辺地域は、現在、地域の復旧・復興が進み、自然環境も再生する一方で、植生の外来種の顕著な増加がみられ、その影響による生態系の急激な変化が懸念されている。また、有珠山周辺には、人工林が多く存在するが、十分に管理されていないものも多く、台風等の一斉倒木で山腹斜面が裸地化し、斜面崩壊が発生する危険性もある。そのため、本活動では、農水省の支援のもと、町、関係機関、有識者等が連携し、壮瞥小学校の生徒を対象に森林保全・整備活動を実施した。



生徒による伐採木のマーキング



在来種の植え

< 農水省 >

NHK「おいしく学ぼう火山のしくみ」学習会講師

火山のしくみや火山がもたらす災害と恵みについて、子どもたちに楽しく学んでもらうことを目的として、NHK札幌放送局が札幌市内のショッピングセンターで開催した防災イベントに講師として協力した。まず岡田理事から「火山を知ろう！」のミニ講座が行われ、その後、札幌の子どもたちにいちばん身近な樽前山と有珠山の溶岩ドームについて、当法人の研究員が簡単な解説を行い、ココアパウダーとチョコレートの溶岩ドーム実験を子どもたちに体験してもらった。見る、触れる、実験する、といった体験活動を通して、子どもたちはもちろん、付き添う保護者たちも火山に関心を示し、楽しんで学んでいる様子が見て取れた。



チョコマグマの溶岩ドーム実験



火山噴出物の展示・解説



ポスター・書籍の展示

< NHK 札幌放送局 >

市町村等から依頼の防災講演及び出前講座

道内市町村等からの依頼によって当法人の理事・研究員が各地で防災講演や出前講座等の講師として情報提供を行った。以下に主なものの一覧を示す。

会 名	依頼者	月 日	話題提供者
土砂災害・全国統一防災訓練 土砂災害講習会	札幌市	6月22日	新谷 融（理事）
安平町自主防災組織講演会（図上訓練 - DIG）	安平町	9月20日	新谷 融（理事） 伊藤 晋（主任研究員） 菱村 里佳（主任研究員）
ジオ・フェスティバル in Sapporo 2014	ジオ・フェス 実行委員会	10月4日	伊藤 晋（主任研究員） 菱村 里佳（主任研究員） 広田 達郎（主任研究員）
FNN防災会議	u h b	10月10日	岡田 弘（理事）
壮瞥町職員防災訓練（図上訓練 - HUG）	壮瞥町	10月16日	伊藤 晋（主任研究員） 菱村 里佳（主任研究員）
帯広市防災セミナー	帯広市	11月27日	新谷 融（理事）
川に学ぶ全国事例発表会	河川財団	1月30日	伊藤 晋（主任研究員）

**環境保全と防災に関わる
国・自治体・企業・
ライフライン・報道機関等と
住民との連携調整事業**

地域防災力向上連携方策検討（CeMI との共同研究）

平成 25 年の改正水防法に伴い、地域の防災基盤となる自治体職員や施設利用者や職員の安全確保の要となる地下施設管理者は、より高い防災意識が求められている。そのため、地域防災力向上に向けた、さらなる防災意識・知識の向上を目指すとともに、自治体・地域住民・河川管理者等が連携した自助、共助、公助による水災害防止体制の構築・強化のため、自治体職員（2 市町）及び地下施設管理者を対象にした水防研修・講演会を実施した。



地下施設管理者対象の水防講演会



自治体職員対象の水防研修

< 札幌開発建設部 >

十勝川流域土砂動態調査検討（CeMI との共同研究）

十勝川流域では、河床低下の進行により、河川構造物が流出・崩壊する等、大きな問題となっている。そのため、これまでに、基礎的水理諸元や河床変動に係る資料の整理、現地調査を行い、当該流域における土砂動態を把握するとともに、土砂動態の観点から河床低下の要因分析及び将来予測に向けて検討を行ってきた。今年度は、これまでの検討内容や課題を踏まえ、「十勝川河道管理勉強会」を開催し、有識者の意見のもと、十勝川流域における今後の土砂管理に関する対応方針について検討・とりまとめた。



十勝川河道管理勉強会の様子



十勝川河道管理勉強会の様子

< 帯広開発建設部 >

浅間山ジオパーク構想広報チラシ作成（CeMI との共同研究）

日本でも有数の活火山・浅間山の山麓地域である群馬県嬭恋村と長野原町によって「浅間山ジオパーク構想推進協議会」が設立されることとなり、この活動を広く地域住民に周知するための広報チラシを作成した。表面では、写真で浅間山ジオパーク構想の多様な地域資源を紹介し、



し、それらは浅間山等の火山によって作り上げられた、足元にある大地（ジオ）に起因するものであることを示し、裏面では、ジオパーク活動のめざすところ（基本理念とその活動）と、浅間山ジオパーク構想に関わる有識者や地域住民のコメントで、ジオパークの各活動やそれらを通じて実現していきたい暮らしやまちづくりのイメージを伝えるものとした。

< 群馬県嬭恋村・長野原町 >

北海道流域環境防災研究会（CeMI との共同研究）

北海道内の流域防災力の向上を目指し、流域防災に関わる関係機関の取り組みを共有し連携を図る場として、平成 19 年度より「北海道流域環境防災研究会」をコーディネートしている。7 月に研究会の会長・副会長と北海道開発局建設部、北海道建設部、北海道水産林務部の運営委員による運営委員会を開催し、現状に合った規約への改正と研究会の議題案について検討を行い、同月末に近年の法改正及び流域災害の発生状況と対策状況に関する情報共有を行った。

また、9 月 11 日の大雨の発生状況と対応状況について関係機関で情報共有するため、12 月に第 9 回研究会(通算)を開催し、札幌市危機管理対策部、北海道森林管理局、北海道開発局建設部、北海道建設部からそれぞれ状況報告を頂いた。



第 8 回研究会（7 月 25 日）の様子



第 9 回研究会（12 月 17 日）の様子

北海道災害情報研究会（CeMI との共同研究）

報道機関、防災関係機関、有識者等で構成された「北海道災害情報研究会」は、参加機関・団体それぞれの立場における災害・防災情報の伝え方やその共有のあり方等を研究するとともに、情報の受け手と出し手の相互理解を図る目的で平成16年に設置された。当機構は、研究会の事務局を務め、企画運営支援を担当している。

第22回は、北海道が推進する「ほっかいどうの防災教育」ポータルサイトの公開を機に『災害情報と防災教育』、第23回は、道内8月の大雨・洪水被害を受けて『風水害時、どう伝えれば？～あれこれ聞きたい、話したい』、第24回は、平成26年9月11日北海道初の特別警報発表を受けて『特別警報を活かすために！』というテーマで、それぞれ以下のとおり開催した。

回	開催日	参加者	テーマ
第22回	H26.7.4	78名	『災害情報と防災教育』 ほっかいどうの防災教育について 甲谷 恵 氏 (北海道総務部危機対策局危機対策課 防災教育担当課長) 災害情報と防災教育について 定池 祐季 氏 (東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター特任助教)
第23回	H26.9.8	82名	『風水害時、どう伝えれば？～あれこれ聞きたい、話したい』 河川災害等の基礎勉強会 黒木 幹男 氏 (CeMI北海道専務理事) 風水害時の災害報道に関する意見交換
第24回	H27.2.18	78名	『特別警報を活かすために！』 9.11 豪雨対応について 村井 広樹 (札幌市危機管理対策室 危機管理対策課長)



第22回 会場の様子



第23回 黒木理事の情報提供



第23回 ディスカッションの様子



第24回 札幌市からの情報提供



第24回 会場の様子

環境保全と防災に関わる 情報の共有事業

上ノ国町地域防災計画修正支援

災害対策基本法・防災基本計画等の改正に伴い、道南の上ノ国町において地域防災計画の見直しを行うこととなり、賛助会員である日本データサービス(株)が上ノ国町と連携して行う計画修正検討の後方支援を行った。計画の修正は、災害対策基本法・防災基本計画の改正と、それに伴って全面改正が行われた北海道地域防災計画の改正内容を基に、各種資料の収集整理、他地域における地域防災計画改正の検討状況を把握し、津波防災の強化と合わせて修正ポイントを整理・提案するとともに、計画改正に伴って新たに庁内で検討すべき点と検討の参考となる資料を整理し、上ノ国町の防災対応力強化の支援を行った。

修正対象計画		主な修正方針
地域防災計画（本編）		法改正・上位計画の改正内容を基準に庁内の体制・対策方針等を見直し。
地域防災計画（資料編）	新設	本編の内容を補足し、必要に応じていつでも引き出せるよう、資料編を新設し、本編と整合するよう整理。
水防計画（本編）	新設	これまで地域防災計画の章として含まれていた水防計画について、上位計画の所管が異なる点も考慮し、別の計画として独立。北海道水防計画を参考に作成。
水防計画（資料編）	新設	本編の内容を補足し、必要に応じていつでも引き出せるよう、資料編を新設し、本編と整合するよう整理。

< 日本データサービス株式会社・北海道上ノ国町 >

大豊町地域防災計画修正支援（CeMI との共同研究）

高知県北部の大豊町では、台風発生時の事前防災行動計画(タイムライン)策定と合わせて、災害対策基本法・防災基本計画等の改正に伴う地域防災計画の改正を行うこととなり、北海道事務所は主に地域防災計画の修正検討支援を担当した。大豊町は9月の大雨によって町内各所で土砂災害が発生しており、国・高知県の関連計画改正に伴う関係資料の収集、他地域における計画改正検討状況等の把握を行うとともに、職員が活用しやすい計画を目指して、災害種別に基づく各編を統一した計画構成の抜本的見直し、様式編の新設等、計画の細部にわたる助言・提案を行った。また、国の指針で強化された要配慮者（避難行動要支援者）対策についても、避難行動要支援者支援プランの策定に関し、他地域の事例の提供等の助言を行った。



《高知県大豊町》

高知県北部に位置し、中央を一級河川吉野川が貫流する。昭和40年代まで林業で栄えたが、以後は過疎高齢化が進行し、町民の平均年齢は60歳を超える。大半が急傾斜地で土砂災害への警戒が必要である。

< 高知県大豊町 >

環境保全と防災に関わる 調査・研究事業

地域の守り手の安全確保支援策の調査研究（CeMI との共同研究）

東日本大震災において、消防団員や民生委員、自主防災リーダー等の地域の守り手が多く被災したことから、JST の研究委託を受け、「大規模災害リスク地域における消防団・民生委員・自主防災リーダー等も守る『コミュニティ防災』の創造」というテーマでの研究プロジェクトを平成 25 年 10 月から名古屋大学、関西大学等とともに実施している。このうち北海道事務所では、「地域の守り手の安全確保支援策」の調査研究を担当し、地域の守り手に、地域防災に関する現状と課題等についての調査を行い、結果をとりまとめている。

平成 26 年度 実施事項	
仙台市消防団員 アンケート調査	仙台市消防局協力のもと全消防団員にアンケートを配布し、回収後集計、分析を行った。
紀宝町消防団員 アンケート調査	紀宝町総務課協力のもと全消防団員にアンケートを配布し、回収後集計、分析を行った。
紀宝町自治会役員・民生委員 ヒアリング調査	紀宝町総務課協力のもと各地域の自主防災リーダー・民生委員等に地域防災の課題等を聞き取り分析した。
様似町西町・西様似連合自治会 地域防災検討会の調整	様似町総務課協力のもと西町・西様似連合自治会において地域防災に関する検討を開始する旨の事前調整を行った。）

< 独立行政法人科学技術振興機構 >

伊豆大島観光復興プロジェクト（CeMI との共同研究）

日本有数の活火山である三原山の噴火や噴火堆積物を含む大規模土砂災害等の自然災害が多く発生する伊豆大島において、島の主要産業である観光にこれら自然災害や防災に関わる地域資源を活かしていく可能性とその方策を検討するため、大島観光協会が東京都産業労働局に事業提案した「『自然災害から見えること・学ぶこと』新・観光プロジェクト」の事業支援を行った。事業は大島町、大島観光協会、防災関係機関、伊豆大島ジオパーク推進委員、地域住民による実行委員会形式で推進し、地域資源の調査、モニターツアー等を通じて、災害・防災に関わる地域資源の観光活用の方策を検討、提案した。



第 3 回実行委員会の様子



モニターツアーの様子（地層大切断面にて）

< 東京都労働産業局観光部・大島観光協会 >